パネルディスカッション

「京都の在宅医療を考える～中部・北部地域における在宅医療の課題」

南丹圏域の地域医療の現状と課題

菱池正之

南丹地域リハビリテーション支援センター（京都中部総合医療センター）

要旨：南丹圏域は２市１町から構成されており，広大な面積に都市部と農村部，山間地が混在する地域である．急速に高齢化が進んでいるが医療資源が少なく，特に都市部から離れた農村部においては医療確保が難しい．当圏域のように医療資源の少ない状況下では，専門領域を超えた知識や目線を養うことにくわえ，地域での支え合いを継続することが地域包括ケアシステム構築のためには重要である．

Key words：地域医療，高齢化，地域包括ケアシステム

Ⅰ．南丹圏域の地域特性

南丹圏域は京都府の中部に位置しており，亀岡市，南丹市，京丹波町の２市１町から構成される．面積は広大で京都府の１/４に相当するが，そのほとんどが農村部と山間地である．公共交通機関が発達しておらず，JR 沿線の他は交通手段の確保が難しい．

平成 27 年度の国勢調査によると，各市町の高齢化率は亀岡市 26.5%，南丹市 33.4%，京丹波町 33.9%であり，南丹市と京丹波町は京都府の平均値 26.9%を大きく上回る（図１）．2040 年の人口推計では，高齢者は現在とほぼ同じ４万人であるが総人口は減少の一途を辿り約３万人減の 11 万人程度まで減少すると推測されている（図２）．

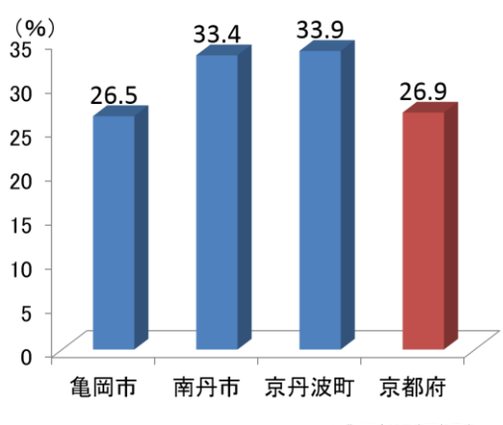


図1　南丹圏域 各市町の高齢化率

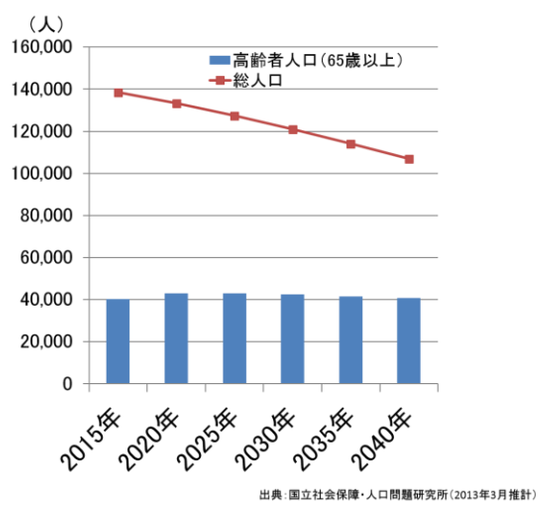


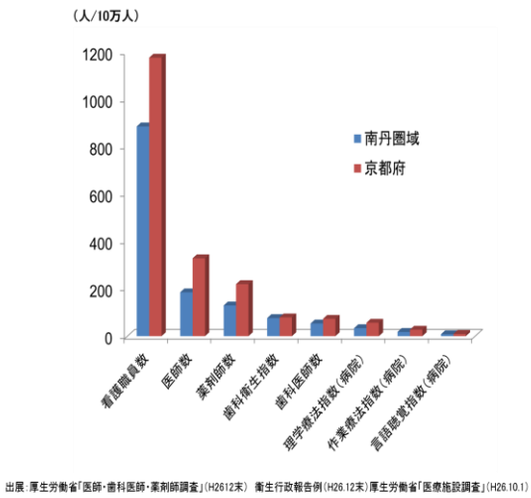
図2　南丹圏域の総人口と高齢者人口の推移

Ⅱ．南丹圏域の医療の現状

圏域は，医師をはじめ看護師，薬剤師，リハビリ職等の医療従事者数（人口あたり）が京都府の平均値を下回っており，医療資源の少ない地域である（図３）．機能別病床数は急性期機能病床 759 床，回復期機能病床 51 床，慢性期機能病床 567 床と急性期機能病床の割合が多いが高度急性期機能病床はない（図４）．このため，高度急性期医療を要する脳血管疾患患者やがん患者の多くが京都市内へ流出している状況であり，現状では圏域を超えた連携が必要になる．[1)]

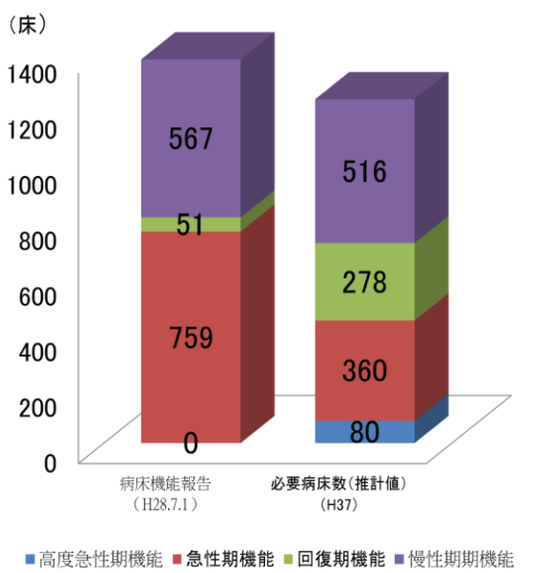
高度急性期治療を受けた後は当圏域で在宅生活を支援してゆくことになるが，医療資源の少ない状況下では

課題も多い．特にへき地といわれる地域への支援は深刻な問題であり，診療所への医師の派遣と社会福祉協議会の通院･外出支援サービスでなんとか地域医療を維持している現状であり，医療の均てん化が期待される．



出展：厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」（H2612末） 衛生行政報告例（H26.12末）厚生労働省「医療施設調査」（H26.10.1）

図3　南丹圏域の医療従事者数



出展：京都府．地域包括ケア構想（地域医療ビジョン），2017．3

図4　南丹圏域の機能別病床数

Ⅲ．地域包括ケアシステム構築にむけて

団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年を目途に，重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう，住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築にむけて少しずつ前進している（図５）．

当圏域のように医療資源の少ない地域では，医療，介護に拘らず様々な分野で働く従事者が専門領域を超えた知識，目線を養うことが必要である．当センターコーディネート事業では職種に関係なく参加でききる研修会を企画しているが，他にも地域リハビリテーション研究センターや京都府南丹保健所が企画する研修会，各地域で開催されている地域ケア会議など多職種の交流の場が存在する．このような場を一層発展させてゆくことが地域包括ケアシステム構築の足掛かりになると考える．

中でも地域ケア会議は各地域で活発に行われてきており大きな期待がかけられている．川越は，地域ケア会議を積み重ねることが，介護支援専門員のマネジメントスキルを高めると述べている[2]．このことからも多職種との意見交換がマネジメントスキルを高め，サービス提供を受ける側にとって，より良い生活，暮らしに近づくことは間違いない．くわえて，そこから浮かんでくる地域課題の把握と解決策について検討されることが期待される．

もう一つの課題は地域での支え合いの継続である．松田は，町内にある公立高校に通う学生を対象とした公設民営塾を設け，進学のための学習支援を行っている自治体の取組事例を紹介している．取り組みの目的は町内の公立高校の存続と地域を支える人材の確保である．町役場の職員や医療，介護施設の職員といった生活基盤を支える人材を確保するためには，町に公立高校が存続し続け，その卒業生が町に愛着を感じ地域を支える人材として町に残ってくれることが大事なのであると述べられている[3]．現状の地域課題の解決にくわえて将来を見据えた人材育成も同時に進める必要がある．

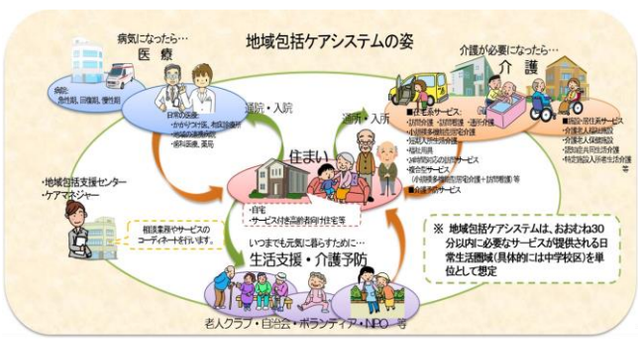


図5　地域包括ケアシステムの姿

【参考・引用文献】

1. 京都府．地域包括ケア構想（地域医療ビジョン），2017. 3. (http://www.pref.kyoto.jp/iryo/documents/kyoutofu-tiikiiryou-vision.pdf)
2. 川越雅弘：我が国における地域包括ケアシステムの現状と課題．海外社会保障研究，No. 162：４－15，Spring 2008.
3. 松田晋哉：地域包括ケアと住宅政策．Review of Japan Society of Health Support Science，Vol. ３：19－26.